

国際理論物理学会議組織委員会
物性専門部会第2回会合記事

(1)
記事
組委 物2

時： 1952年11月3日 14時—18時

所： 京都大学 湯川記念館

出席者： 小谷、有山、藤岡、藤原、伏見、原島、広根、
石原、宮原、武藤、岡、小野、高木、戸田、
山本、山内、

特別出席者： 谷（組織委委員）、小林（同）
（事務局、吉田、山越）

配布資料：

1
準委 8

招返	3
1952.10.27.	

事務的決定事項：

1. 専門部会委員に谷 安正教授、高橋秀俊助教授他1名（分子物理関係者、後で小谷委員が決める）を加える。
2. 次回会合は今年末又は来年初め。



(2)

— 議 事 —

記	事
組委	物2

1. 会議の性格及び目標

単なる“顔見せ”という考え方を清算し、この会議が内容的に充実し、良き成果を産むようになることを目標とする。そのためには我々の側では、来年の9月までに出来るだけ良い仕事が産れるよう努力を集中することが必要である。これは会議を一つの目標として利用し、日本の物性論を全面的に進歩させる努力ともなる。

2. 会議の運営方針

*Informal gathering*の機会を十分もつことが必要である。素粒子の方では本会議に平行に自由な集をする考もあるようであるが、物性の方は二会場平行に開かれるため、*informal gathering*には会期中で本会議の開かれていない空き間を利用することになる。現在のプログラムでは京都での会期5日間(休日を除く)に統計力学、固体論ともに7単位(1単位は半日約3時間)の *Sessions* が組まれており、従って3単位の空き間があるが、出席者の顔ぶれや論文の集り方によって *Sessions* がもっと整理されれば、空き間の単位数をもう少し増せるかも知れない。*Sessions* が多少減っても統計力学、固体論を平行に組むことは差支ない。積極的な参加者だけに限定する意味ではこれはむしろ望ましいことでもある。

専門分野を多少整理統合して別表1のとおりにする(電波分光学は分子と磁気とに分けて入れる。)

3. 国内準備体制

(1) 専門分野毎の準備班の組織

各分野について3人の世話人を定め、その内の1人を責任者とすることにし、選考結果別表1のとおり決まった。(◎責任者、○代表者。)

(2) 準備討議会

(3)

記	事
組委	物2

各班の準備の連絡のため、2月頃及び6~7月頃に研究内容の詳細な討議のための会合を行うことに決定。その具体的内容は各班において計画する。尚4~5月頃の物理学会分科会をも利用する。各班の責任者は組織委員会専門部会委員とすることに定め、その意味で谷安正教授、高橋孝俊助教授及び分子専門分野の責任者(未定-小谷委員に選定-任)を専門委員に加える。

(3) 国内関係参加者の選定

各班で参加推せんリストを作り、専門部会で班相互の調整をする。物性部門では素粒子部門のように無記名の入場券を発行せず、全部 *Sessions* 別の記名入場券とする。

各班毎に 100名以内のリストを次の会合までに作る。

(4) *Excursion, Symposium* の準備

コースを幾つか作っておいて参加者の希望を募ることとし、特定の大学などで特定の参加者の来訪を希望する場合は別に交渉の方法を講ずる。

Excursion の費用は原則として参加者負担であるが、講演者に対しては別に考える。

Excursion は団体的行動を取る組の他に、個人的に独立に歩き回れることも考える必要がある。

Excursion に関連して特に来訪乃至講演が望まれる参加者及び関心が希望される *Symposium* は別表2のとおりである。

これ以外の希望については、各班から小谷委員まで申出ることに決定。

4. 渉外関係

(1) 追加乃至補充招請

二次招請は *UNESCO* の補助額が定ってから出すことになるが、希望をそれまでにまとめることに決定。 本日提出された希望は次のとおり。

極低温関係: *Landau* (ソ連の現状を知る意味においても是

(2)

単なる
 実し、
 我々の
 努力を
 集
 利用し、

Info
 粒子の
 物性の
 会期中
 現在の
 学、固
 体
 組まれ
 て
 論文の
 集
 単位数
 を
 統計力
 学
 けに
 限定
 専門分
 野は
 分子と

- (1) 専門
 各分
 するこ
 ○代表
- (2) 準備

(6)

別表 2

Symposium 及び講演の希望一覧

記 事
 組委 物 2

Symposium			講 演		
部 門	主 催	所	人	主 催	所
(高 分 子)	高分子グループ	箱根 (2日)	Flory	日本化学会	東京
(塑 性) (分子のSymposium と平行)	Plastics Group	日光 (古河製鋼所 又は 金谷本社)	未 定	日本物理学会 (4~5回)	東京 (他校)
			Neel Anderson	(東北大学 北海道大学)	仙台 札幌
			J. de Baer	九州連合	福岡
			Blaembergen	大阪大学	大阪

別表 3

専門分野英名一覧

日 本 名	英 名
分 子	Symposium on electronic structure of molecules and radiofrequency spectroscopy
一 般 方 法	General methods in statistical mechanics
液 体	Statistical thermodynamics of liquids and solutions
輸 送 現 象) 不 過 逆 過 程	Transport phenomena; Thermodynamics of irreversible processes
高 分 子	High polymers
液 体 へ リ ウ ム) 超 伝 導	Liquid helium, super-conduction
固 体 電 子	Electronic structure of solids
磁 性	Magnetism (including microwave resonance)
半 導 体	Semiconductors ; dielectrics
塑 性	Plasticity